

「第3回自転車セミナー」を開催いたしました！

本会では、新しい自転車利用の社会的認知を図るとともに、高付加価値自転車の普及等の啓発活動を実施し「自転車市民権」の確立を目指すため、自転車と環境・健康問題あるいは、都市交通における自転車の役割や、走行空間など様々な問題を一般の方々と共に考える場として、自転車セミナーを10月から計5回の予定で開催いたします。

《第3回自転車セミナー》

実施日時：平成22年12月16日（木）18時～20時

実施会場：日本自転車会館3号館11階（財）日本自転車普及協会 会議室

タイトル：「自転車による観光振興」

～2010年は自転車観光元年、導入ステップと内外の参考事例～

講師：(株)八重洲出版「CICLISSIMO（チクリッシモ）」宮内 忍 編集長

プロフィール：1995年 サイクルスポーツ編集長

2006年 チクリッシモ編集長

2009年 (株)八重洲出版 自転車事業部 統括部長



＜ご講演の様子＞

写真画像を活用した分かりやすい内容でした。



宮内編集長



＜会場内の様子＞

多くの方にご参加いただきました。

この自転車セミナーでは、各分野で活躍されている方々を講師にお招きし、自転車についての講演・対談を行っていただきます。

第3回目の今回は、八重洲出版「CICLISSIMO（チクリッシモ）」の宮内編集長にご講演いただきました。

2010年は、新規の自転車イベントの増加（参加者数の増加を含む）、観光地でのレンタサイクル導入の増加及びコミュニティサイクルの社会実験の増加などから、「自転車観光元年」と言える年であると述べられ、ブームとなっている「サイクリングツアー」を中心に、大学時代のサイクリング部の経験とお仕事での経験を生かし、観光振興に寄与するための方法論を、写真画像を活用した具体的な事例をもとに、以下の構成で分かりやすくお話しいただきました。

1. ブームの様相を呈している自転車利用の観光施策
2. 自転車を利用する観光イベントの種類と特徴
3. サイクルリストを観光地に誘致するための導入ステップ
4. イベントの事例：スポニチ佐渡ロングライド210
5. ガイド付きイベントツアーの事例：オーストラリアのペダルパワー社
6. 自転車観光地の事例：広島県・愛媛県：しまなみ海道

セミナーの要約は、2ページ目のとおり

セミナーの要約

「サイクリングツアー」は世界的に珍しくなく、活用方法によっては、有効な観光振興の手段といえる。その最も成功している例としては、世界最高峰の自転車ロードレースである「ツール・ド・フランス」のスタート・ゴール地点周辺の誘致であり、例年、約250の自治体が名乗りを挙げている。

観光振興のための方法論としましては、

- 参加者数が非常に大切である。参加者数が増えることにより、地元での協力体制が得やすい。
- プロモーションをしっかりとやれば、参加者数は増える。減っている所は、プロモーションがうまくいっていないことが最大の理由である。
- 全国から参加者を集めたい場合は、滞在時間を増やせる160km以上のロングライドの設定が必要である。逆に、地元周辺の集客のみで良い場合は、短い距離の設定でも構わない。
- 海外からの参加者を集めたい場合は、簡易に作成できるWEBサイト（英語版）を活用する方法がある。
- 予算措置や継続性を求めるのであれば、受け皿として、NPOなどの自転車活用推進団体の必要である。
- 繁忙期を避けた、活用方法のアイデアが考えられる。（例. 野球シーズン外でのサイクルトレイン、夏場のスキー場でのMTB競技開催など。）

ただし、事業者は、例えば、観光用に電動アシスト車のレンタサイクルを導入したとしても、それがゴールではなく、あくまでのスタートであり、利用者のニーズに合致した継続性も持たせた取り組みが必要である。（例. 自転車用のガイドマップの作成など）

サイクリングツアーの参加に際しては、

- ヘルメットを用意している観光ツアーは、比較的、安心・安全性が高い。
- 海外のツアーなどでは、自分に合った、サドル・ペダル・ヘルメットなどを持参した方がベターである。

など、実体験をもとに、ご説明いただきました。

質疑応答の時間については、多く設けられませんでしたでしたが、以下の質問がありました。

質問：自転車のツアーガイド資格はあるのか？

回答→宿泊を伴う場合は、旅行業の資格が必要であるが、特に定めたものはない。独自に、安全性やガイドのレベル向上のための、「自転車ガイド協会」という団体もある。

質問：自転車専門ガイドの会社を教えてください。

回答→一例として、京都サイクリングツアープロジェクト、にわサイクリングツアーズなどが挙げられる。

予定終了時刻は19時30分でしたが、30分時間をオーバーして、熱弁を奮っていただき、大いに盛り上がったセミナーとなりました。時間の都合上、質疑が出来なかった方は、懇親会の場において、ご熱心に宮内編集長に質問をされていました。

今回セミナーに参加いただけなかった皆様におかれましては、[次回以降開催予定については3ページ目のおり](#)となっておりますので、是非足をお運びいただければ幸いです。

次回の以降セミナー予定：

<第4回>

平成23年1月27日（木）18：00～19：30

講師：(株)毎日新聞社 編集局 社会部 馬場直子記者

題名：相次ぐ高額賠償 自転車事故を巡る日本の現状



<第5回>

平成23年2月24日（木）18：00～19：30

講師：(財)日本自転車普及協会(自転車文化センター) 谷田貝一男学芸員

題名：シティサイクルから探る自転車と社会との関わりの歴史



このセミナーは競輪の補助金を受けて実施いたしました。

<http://www.keirin-autorace.or.jp/>